古文単語 本文で意味を決める ①

高校／意味が2つの語を、本文の手がかりで絞る

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

各組（1〜4）の――線の語の意味を、見出しの横の「意味の一覧」から選び、右の「番号」欄に番号を書きなさい。
その意味に決めた手がかりを、――線の語以外の本文から、右の「手がかり」欄に書き抜きなさい（10字までを目安に）。
意味の一覧は、古文単語プリントの一覧表と同じ語義です。同じ語でも、本文によって意味が決まります。

1 いかで （副詞） 意味の一覧 ① どうして ② なんとかして

ア 世界の男、貴なるも賤しきも、「いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがな。」と、音に聞きめでて惑ふ。（竹取物語）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

イ 石作皇子は心のしたくみある人にて、「天竺に二つとなき鉢を、百千万里の程行きたりともいかでか取るべき。」と思ひて、……（竹取物語）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

2 にほひ （名詞） 意味の一覧 ① 美しい色つや ② 香り

ア 申の時にて源氏参りたまふ。角髪結ひたまへるつらつき、顔のにほひ、さま変へたまはむこと惜しげなり。
（源氏物語・桐壺）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

イ 御堂の方に法師ども参りたり。夜寒の風にさそはれくる空薫物のにほひも、身にしむ心地す。（徒然草・第四十四段）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

3 あさまし （形容詞シク活用） 意味の一覧 ① 意外なことに驚く ② 情けない・見苦しい

ア ……うち伏せてしばりけり。馬は血つきて宇治大路の家に走り入りたり。あさましくて、男どもあまた走らかしたれば、
……（徒然草・第八十七段）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

イ 三昧僧何某の律師とかやいふ者、ある時鏡を取りて顔をつくづくと見て、我が貌の醜くあさましき事を、余りに心憂く覚えて、鏡さへうとましき心地しければ、
……（徒然草・第百三十四段）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

4 おほす （動詞・サ行下二段活用） 意味の一覧 ① おっしゃる ② お命じになる

ア 亀山殿の御池に、大井川の水をまかせられむとて、大井の土民におほせて、水車を作らせられけり。（徒然草・第五十一段）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

イ 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」とぞ、徳大寺の太政大臣はおほせられける。（徒然草・第二十三段）

番号 ＿＿ 手がかり ＿＿＿＿

いちごドリル プリント

つづきの無料プリント
「古文単語プリント」のプリント一覧がひらきます

古文単語 本文で意味を決める ①【こたえ】

高校／意味が2つの語を、本文の手がかりで絞る

名前 ＿＿＿＿＿＿＿＿

日付 ＿＿＿＿＿＿＿＿

赤い字がこたえです。手がかりは例で、同じ理由を示す別の語句でも正解にします。
「→」のあとは、その意味に決まる理由です。番号だけ合って手がかりが言えないときは、理由を確かめましょう。

1 いかで （副詞） 意味の一覧 ① どうして ② なんとかして

ア 世界の男、貴なるも賤しきも、「いかでこのかぐや姫を得てしがな、見てしがな。」と、音に聞きめでて惑ふ。（竹取物語）
→ 願望の終助詞（てしがな・ばや）と呼応＝実現を願う「なんとかして」

番号 ②　手がかり **てしがな**

イ 石作皇子は心のしたくみある人にて、「天竺に二つとなき鉢を、百千万里の程行きたりともいかでか取るべき。」と思ひて、……（竹取物語）
→ 「いかでか＋推量・可能のべき」＝反語の「どうして～か」

番号 ①　手がかり **取るべき**

2 にほひ （名詞） 意味の一覧 ① 美しい色つや ② 香り

ア 申の時にて源氏参りたまふ。角髪結ひたまへるつらつき、顔のにほひ、さま変へたまはむこと惜しげなり。（源氏物語・桐壺）
→ 顔の血色・つやを言う（視覚）

番号 ①　手がかり **顔の**

イ 御堂の方に法師ども参りたり。夜寒の風にさそはれくる空薫物のにほひも、身にしむ心地す。（徒然草・第四十四段）
→ 薫物の「にほひ」＝かおり（嗅覚）

番号 ②　手がかり **空薫物**

3 あさまし （形容詞シク活用） 意味の一覧 ① 意外なことに驚く ② 情けない・見苦しい

ア ……うち伏せてしばりけり。馬は血つきて宇治大路の家に走り入りたり。あさましくて、男どもあまた走らかしたれば、……（徒然草・第八十七段）
→ 血のついた馬が戻るという予想外の出来事への、驚きあきれる気持ち

番号 ①　手がかり **馬は血つきて**

イ 三昧僧何某の律師とかやいふ者、ある時鏡を取りて顔をつくづくと見て、我が貌の醜くあさましき事を、余りに心憂く覚えて、鏡さへうとましき心地しければ、……（徒然草・第百三十四段）
→ 「醜く」と並び、自分の容貌を嘆く＝見苦しい・情けない

番号 ②　手がかり **醜く**

4 おほす （動詞・サ行下二段活用） 意味の一覧 ① おっしゃる ② お命じになる

ア 亀山殿の御池に、大井川の水をまかせられむとて、大井の土民におほせて、水車を作らせられけり。（徒然草・第五十一段）
→ 「～におほせて～作らせ」＝人に命じて何かをさせる

番号 ②　手がかり **水車を作らせ**

イ 「内侍所の御鈴の音は、めでたく優なるものなり。」とぞ、徳大寺の太政大臣はおほせられける。（徒然草・第二十三段）
→ 「」の中の言葉を「と」で受けて引く＝言う意の尊敬「おっしゃる」

番号 ①　手がかり **」とぞ**